



— 歌川広重から東山魁夷まで —

旅にまつわる 絵とせとら

上:初代歌川広重《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》天保初期(1830年代) 郵政博物館蔵 ※8/16~8/31 展示 下:東山魁夷《白夜光》1965年 東京国立近代美術館蔵

江戸時代の名所絵をはじめ、風光明媚な景勝地を描いた風景画など、現代にいたるまでの旅にまつわる多彩な絵画およそ 200 点を展観。200 年以上前のガイドブックや画家が装丁を手掛けた旅行雑誌といった旅の“エトセトラ”にも注目します。

会 期：2025 年 7 月 16 日(水)～8 月 31 日(日) ※会期中、一部展示替えを行います

休館日：毎週月曜日 ※ただし 7 月 21 日(月・祝)、8 月 11 日(月・祝)は開館、翌日休館

主 催：茨城県近代美術館

後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK 水戸放送局／産経新聞社水戸支局／東京新聞つくば支局／日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM 茨城放送

記者レクチャー・内覧会

2025 年 7 月 15 日(火) 午後 2 時～3 時

展覧会開幕前日に、報道関係者向けのレクチャーと内覧会を開催します。担当学芸員による見どころ解説の後、展覧会場を自由にご観覧いただけます。参加ご希望の方は、広報担当あてに事前にメールか FAX でご連絡ください。

問い合わせ

担当学芸員：美術課 高田 広報担当：企画課 加藤 イベント担当：企画課 藤崎
茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1 Tel: 029-243-5111 Fax: 029-243-9992
E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

■ 展覧会概要

本展では、旅にまつわる多彩な絵画およそ 200 点をご紹介します。江戸時代の浮世絵に描かれた、人々がにぎやかに行き交う宿場町、明治期に海外へわたった画家たちが新鮮な驚きを含めて表した異国の光景、いにしえより描き継がれてきた風光明媚な名所など、旅の魅力が詰まった作品が集結します。

また、200 年以上前に人気を博したガイドブック『旅行用心集』(八隅蘆庵著、1810 年刊行)をはじめ、近代以降の画家たちが装丁や挿絵を手掛けた旅行雑誌や鉄道のポスターといった旅の“エトセトラ”にも注目します。時代ごとの旅の様子や文化を映し出す貴重な作品や資料をとおして、その時々には生きた人々が抱いた、旅することへの憧れや喜びに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

展覧会の見どころ

● 歌川広重から東山魁夷まで約 60 作家、約 200 点が集結

初代歌川広重が手掛け爆発的ヒットとなった「東海道五拾三次」の浮世絵シリーズを筆頭に、横山大観が明治期にインドで出逢った光景を描いた《流燈》(1909年)、旅を創作活動の源とした国民的風景画家・東山魁夷による北欧連作の一つ《白夜光》(1965年)など、江戸時代後期から現代にいたるまで、約 60 名の作家、約 200 点による旅情あふれる作品をご覧ください。

東山魁夷は、一年の半分以上を旅に費やすほど、旅とともに生きた画家でした。本作は 50 代半ばの魁夷が、若い頃からの憧れの地であった北欧に赴き描いた風景です。



東山魁夷《白夜光》1965年 東京国立近代美術館蔵

● 世界から日本、茨城の名所めぐりを疑似体験

展覧会場では絵画をとおして、画家たちが実際に訪れて描いたフランス・イタリア・イギリスなどのヨーロッパ、中国・インドなどのアジアといった世界各国の名所めぐりを疑似体験していただけます。また、国内の景勝地においては、連綿と絵の題材になってきた富士山はもちろん、古くから愛されてきた潮来や霞ヶ浦などの水郷、筑波山、袋田の滝といった茨城ならではの風景も取り上げます。

小杉未醒が現在の茨城県潮来市を「佳き風景」と気に入り、何度も訪れるなか描いたもので、第5回文展で最高賞を受賞した優品です。



小杉未醒《水郷》1911年 東京国立近代美術館蔵

● エトセトラで楽しむ、旅事情の今昔

現代にいたるまで、数々の画家たちが旅の風景を描いてきたのには、時代ごとの出来事や社会的な動向が深く関係していたことも見逃せません。たとえば、明治以降、近代化が進むとともに急速に発達した交通網、昭和初期に新聞社が主導した日本新八景の選定による名所ブーム、あるいは戦時下における聖地巡拝の流行などは、画家の旅のあり方や創作活動そのものに影響を与えました。

本展では、旅の“エトセトラ”として、日本初のグラフィックデザイナーとして知られる杉浦非水が装丁を手掛けた旅行雑誌『ツーリスト』や、「大正の広重」と称された吉田初三郎による鳥瞰図の観光案内といった資料類にも注目しながら、普段の作品鑑賞ではなかなか知りえない、旅事情の今昔をご紹介します。

外国人観光客の誘致を目的として設立されたジャパン・ツーリスト・ビューローが発行した雑誌『ツーリスト』。創刊の1917年から1932年まで杉浦非水が装丁を担当しました。



装丁：杉浦非水『ツーリスト』1931年2月号 旅の図書館蔵 ※画像提供不可

● 楽しい落語のイベントも！

展覧会期間中の8月2日(土)午後2時から、茨城県を落語で盛り上げようと結成された落語家ユニット「いばらく」の立川志のぼんさん(石岡市出身)、柳亭市寿さん(取手市出身)をお迎えし、落語と小噺体験のイベント「美術館寄席 江戸の旅路を笑いにのせて」を開催します。展覧会とあわせて、江戸時代の旅の風情や文化を感じていただく機会をご提供します。

短文テキスト例

広報文①（約 60 字）

旅にまつわる多彩な絵画約 200 点と、江戸時代のガイドブックや画家が装丁を手掛けた旅行雑誌といった旅の“エトセトラ”を紹介。

広報文②（約 100 字）

江戸時代の名所絵をはじめ、風光明媚な景勝地を描いた風景画など、現代にいたるまでの旅にまつわる多彩な絵画およそ 200 点を展観。昔のガイドブックや画家が装丁を手掛けた旅行雑誌といった旅の“エトセトラ”にも注目します。

広報文③（約 150 字）

江戸時代の名所絵や絵双六をはじめ、風光明媚な景勝地を描いた風景画など、現代にいたるまでの旅にまつわる多彩な絵画およそ 200 点を展観。200 年以上前に刊行された旅のガイドブックや、近代以降の画家たちが装丁を手掛けた旅行雑誌といった旅の“エトセトラ”にも注目し、普段の作品鑑賞ではなかなか知りえない旅事情の今昔を紹介します。

関連イベントほか

■美術館寄席

「江戸の旅路を笑いにのせて」

出演：立川志のぼん(落語家)、柳亭市寿(落語家)

日時：8月2日(土) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名(申込不要、参加無料、要企画展チケット、当日午前9時30分～整理券配布、お一人様1枚まで)



立川志のぼん



柳亭市寿

■鑑賞講座

講師：高田紫帆(本展担当学芸員)

日時：8月11日(月・祝) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名(申込不要、参加無料)

■学芸員によるギャラリー・トーク

講師：高田紫帆(本展担当学芸員)

日時：7月20日(日) 午後2時～3時

会場：2階企画展示室

定員：なし(申込不要、要企画展チケット)

■アートフォーラム

体験コーナー：「絶景！すごろく旅」

創作コーナー：「ハクタク*さんのお守り作り」

その他、絵本コーナーや授乳スペースも

*ハクタク(白澤)は中国の神獣の一種。本展で展示する八隅廬庵の『旅行用心集』で旅のお守りとして図柄が紹介されています。

■レストラン「プティ・ポワル」期間限定メニュー

「カジキマグロのポワレ、白インゲンと南仏野菜の煮込み添えピストウ(バジル)風味」

本展でご覧いただく明るい南仏の風景画をイメージした一品。南仏を代表するソースであるピストウのさわやかな風味が香る、夏にぴったりの期間限定メニューです。

※各イベントは、内容が変更または中止になる場合があります。ご来館の際は、当館HPでご確認いただくか、当館までお問い合わせください。

広報用画像

- ・このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ・画像のトリミング・文字のせはお控えください。
- ・図版には以下のキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像掲載の際には、当館までご一報ください。



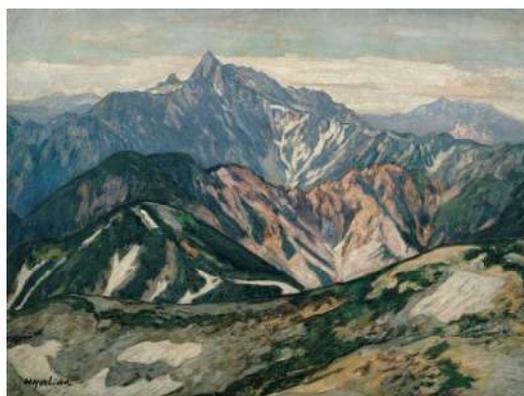
1 初代歌川広重《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》天保初期（1830年代）
郵政博物館蔵 ※8/16～8/31 展示



2 初代歌川広重《東海道五拾三次之内 御油 旅人留女》天保初期（1830年代）
郵政博物館蔵 ※8/1～8/15 展示



3 三代歌川広重《東海名所改正道中 記 旅人留女 亀山 閑迄寄り半》1875年 郵政博物館蔵
※8/16～8/31 展示



4 吉田博《槍ヶ岳》1921-26年
茨城県近代美術館蔵



5 横山大観《流燈》1909年
茨城県近代美術館蔵



6 三代歌川広重《東海名所改正道中 記 六郷川鉄道 川崎 神奈川迄二り半》1875年 郵政博物館蔵
※7/16～7/31 展示



7 小杉未醒《水郷》1911年
東京国立近代美術館蔵



8 東山魁夷《白夜光》1965年 東京国立近代美術館蔵